

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 渡部貴史

論 文 題 目

Internet communication of outpatients with Asperger's Disorder or schizophrenia

(アスペルガー障害または統合失調症の外来患者におけるインターネットコミュニケーション)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 榊原 久孝

名古屋大学教授 寶珠山 稔

名古屋大学教授 鈴木 國文

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、外来通院中のアスペルガー障害（AD）、あるいは統合失調症の男性患者の内、日常的にインターネットを使用している者について、インターネットコミュニケーションのあり方を、健常対象群を設けて詳細に調査したものである。他者とのコミュニケーションに様々な困難をもつこれらの障害の患者がインターネット上他者とのようにコミュニケーションしているかという問題は、支援上きわめて重要な点であるが、これらの精神障害者におけるインターネット使用について詳細に調べた報告はない。本研究では、メール、BBS(電子掲示板)、ブログ、マイクロブログ、SNSの使用に限定し、次の諸点について詳細な調査を行った。①インターネットコミュニケーションに対する一般的姿勢とそこにおける危険の認知。②パソコンと携帯、端末それぞれにおけるメールの頻度。③端末それぞれにおける BBS(電子掲示板)、ブログ、マイクロブログ、SNS での書き込みと閲覧の頻度。

AD 群 29 名、統合失調症群 32 名、正常対象群 97 名である。患者対象は多施設の外来通院患者（20～39 歳）である。なお、AD について診断を正確にするために、主治医の診断に加え、①自閉症スペクトラム質問票においてカットオフ値より低い者、②PANSS（陽性症状陰性症状評価尺度）で「妄想」と「幻覚による行動」が 3 点以上の者を AD 群から除外した。また、統合失調症においては、PANSS の陽性症状の程度とインターネットコミュニケーションにおける危険認知との関係を調査した。

主な結果は以下の 6 点である。

- 1) AD の患者は健常者に比し、インターネットコミュニケーションのために、パソコンを有意に多く利用するが、携帯電話の利用は有意に少ない。
- 2) AD の患者はインターネットコミュニケーションサービスの内、BBS とブログを使用する頻度、および BBS に書き込みをする頻度が健常者より有意に高い。
- 3) AD では、インターネットコミュニケーションの方が通常のコミュニケーションよりも正確にメッセージが伝わると考えている人が健常者より有意に多い。
- 4) 統合失調症の患者はインターネットコミュニケーションのために、健常者と同じ程度にインターネットを使用している。
- 5) 統合失調症の患者はインターネットコミュニケーションにおいて、未知の他者を信頼しやすい傾向と、傷つきやすい傾向の両方を併せもっている。
- 6) 統合失調症の患者は陽性症状が悪化するほど、インターネットに含まれるリスクに対する意識が低下する傾向がある。

【新しい知見】これらの患者のインターネット使用に関する詳細な調査報告はなく、上記の結果はいずれも新しい知見である。特に、2) 6) は重要である。また、診断の揺れが大きい AD について、できる限り厳格な診断のもとで調査を行っていることも本研究の優れた点である。

【意義】AD および統合失調症の患者のリハビリテーションにおいて、インターネットコミュニケーションを利用することは今後重要な課題となる。本研究の知見はその際の留意点について重要な示唆をもたらしている。

以上より、本研究は博士（リハビリテーション療法学）の学位を授与するにふさわしい価値を有するものと評価した。

本研究はオーストラリアの国際専門学術雑誌 Asia-Pacific Psychiatry (WILEY-BLACKWELL,) に受理され、2014 年に掲載予定である。